『現在地』演出ノート

2012 年チェルフィッチュは、『現在地』という変化をめぐる架空の物語を初演しました。以来 30 回あまりの上演を重ねてきました。そして今年、東京で上演します。

『現在地』の登場人物たちは、状況を変化させたいと強く望んだり、変化させなければと焦ったり、怒ったり、実際に変化に実を投じたり、それはできずにためらったり、常に冷静で穏やかであろうと努めたり、変化するしないを勇敢さ臆病さの問題として考えたり、考えなかったり、開き直ったり、自分の考えていることが正しいのかどうかの確信をどうしても欲しいと思ったり、正しい人間でいたい過ちを犯したくないと思ったり、たとえばその気持ちを過去に人類が犯した取り返しの付かない過失になぞらえようとします。
彼女たちの姿は、いまのわたしたちの姿と、どのくらい重なるのでしょう？　まだ重なるのでしょうか？　もう重ならないのでしょうか？

岡田利規（チェルフィッチュ主宰、演劇作家、小説家）